教育広報

かけはし

第35号　平成10年7月17日発行
千代田区教育委員会

そっちの方がいいなあ、わくわく縁日（お茶の水幼稚園）

主な記事

☆“もっと身近に”
教育研究所が新しくなりました

☆国際性豊かな子供に育ってほしい
――千代田区の国際交流――

☆地域に支えられる子供たち　（その4）
――千代田剣友会――

☆学校通信（一学期）

小学校のお兄さん・お姉さんたちと縁日を開きました。

楽しいお店がたくさんあっていっぱい遊びました。

みんなほしいものが取れたのかな。

＊教育広報「かけはし」は資源保護のため再生紙を使用しています。

“もっと身近に” 教育研究所が新しくなりました

パークサイドプラザと総合体育館に併設されていた教育研究所が、神田さくら館内に、今年3月にオープンしました。では、いったい教育研究所はどのような活動をしているのでしょう。今号では新しい教育課題に向け、努力している教育研究所を紹介します。

専任の所長が就任しました

教育研究所は調査研究部門と教育相談部門の二つからなり、様々な今日的課題に取り組んでおりますが、この程、元練成中学校長で教育分野に経験豊富な専任所長、青柳健一氏が就任しました。そこで、新所長に抱負を伺ってみました。

青柳所長

開かれた教育研究所

地域密着型の複合施設として開設した神田さくら館に、これまで二つに分かれていた教育研究所が統合され、地域に開かれた施設として再出発しました。

7階の最新ビデオプロジェクター設備のある研修室や個人利用もできるAVライブラリーは研究所使用の時以外は一般にも開放されています。

教育相談部においては、スクールカウンセラーの派遣と適応指導教室、教育相談を中心として、学校との連携をより深めて教育相談活動の充実を図ります。また進んで学校や地域に訪問相談に出向き、お手伝いをしたいと考えています。

調査研究部においてはコンピュータ教育の指導計画の作成をはじめ、21世紀の高齢者社会に先駆けて福祉教育の研究を進めていきます。

最近は各区や市に教育研究所や教育センターがたくさんありますが、その中で千代田の教育研究所が、親近感のある研究所として、先生方や地域の方々のお役に立つように所員一同頑張っていきます。

主な活動について、それぞれの分野の専門員にもう少し詳しく説明していただきました

教育研究のパートナーとして

― 調査研究部

「調査研究部門では、いまどのような研究を進めていますか。」

調査研究部では千代田区で抱えている様々な教育課題について、現場の先生方と共に教育情報を収集・整理、研究しています。

まず、コンピュータ教育では、どの教科のどの場面でコンピュータを使うと一番よい効果が得られるか、また指導上どの場面で使えるかというもので、これを今年度年間指導計画として作成し、平成11年度には各小学校に配布する予定です。中学校は、インターネットを活用した指導が課題の一つになっています。

情報化社会の発展に対応して、情報教育は新たな課題として重要になってきました。一層のコンピュータ教育の充実進展を目指して研究を進めていきます。

またコンピュータ教育を実践するに当たり、現場の先生方の資質向上に、コンピュータの技能研修を実施しています。先生のスケジュールにより常時行うもの、学校に出向き行うもの、夏期休業中に行うもの、講師の育成を目的とした専門機関への派遣などきめ細かく実施し、学校の先生方のニーズに応えていきます。

充実した教員向けコンピュータ研修

今年度からは、高齢者社会に対応すべく、福祉教育の調査研究を始めました。研究所の福祉教育研究部会により作成された研究資料を各学校に提供し、各学校独自の特性に応じて行う福祉教育の手助けをするものです。

その他には、情報資料室とAVライブラリーがあります。情報資料室は、収集した資料の目録を各学校に送付し、先生方に利用を働きかけています。AVライブラリーは、研究所使用時間外にまちかど図書館のビデオやCDを鑑賞できるよう、一般に開放しています。

一般に開放されているAVライブラリー

教育研究所は研究にあたって学校の先生方に参加してもらい、あくまで先生方の独自の発想を妨げることなく、資料や情報・助言や研究の場の提供をし、できるだけ現場の声を聞き、現場の教育に役立つようにと考えています。過去の資料を整理しつつ、現在・未来に確かな思考をもって取り組んでいきます。

「どうしよう」からはじめよう

― 教育相談部

「教育相談や白鳥教室などはどのように行われているのですか。」

この頃、不登校の児童・生徒が増加する傾向にあります。その原因は、学習上の悩みであったり他人の目が気になったりと様々です。家族や学校だけでは解決できないものもあると思います。

そんなときには、研究所がお手伝いします。

教育相談部では以前から、保護者の方から寄せられた悩みについて、来所相談を実施してきました。来所相談では悩みを持った保護者の方と心理療法士（セラピスト）が直接話し合いをし、必要によってはお子さんも交えて相談を行い、解決策を探ります。この相談は電話でも受け付けていますので、お子さんのことで少しでも気になることがありましたらご利用いただきたいと思います。個人のプライバシーは必ず守ります。

次に最近は、学校に相談員が出かけて行き、助言や情報を提供する訪問相談に力を入れています。特に中学校には毎月スクールカウンセラーとして相談員を派遣し、学校内での教育相談のお手伝いをしています。小学校にも要請があれば出向いていきます。

さらに、前記二つの相談に関連して、不登校児童・生徒のために白鳥教室を開設しています。白鳥教室は、いろいろな理由で学校へ行けなくなった子供たちが通っている教室です。ここでは専門の相談員や指導員が一人ひとりから悩み事を聞いたり、個々の能力に応じた学習をしたりしています。また、軽い運動や創作活動を通して、人との関わり合いの大切さを学び、そこから存在感や自信を持ち、お互いを思いやる気持ちを育て、集団生活に慣れていくことを目指します。

プレイルームでちょっと気晴らし

みんなでやれば何かできる

― 白鳥教室にインタビュー

「白鳥教室で生徒との触れ合いを通して感じることをお話ください。」

生徒は白鳥教室にいても、学校のことが気にかかっているようです。特に、学習面の遅れが心配になります。白鳥教室に慣れてくると、自発的に教科書を持参し勉強を始めてくれるのですが、指導方法は学校のようにはいきません。一人ひとりの進度に違いがあり、指導にあたっては、どのような方法がその人に一番合っているか悩みますし、生徒とも話し合っています。所内の経験豊富な先生方が、心を合わせて一体となってバックアップしています。

「創作活動はどのようなことをされているのですか。」

生徒は興味を持つと本当に一生懸命取り組みます。昨年はコンピュータを使って名刺を作ったり、ロールプレイングゲームを皆で協力して作り上げました。

今年は園芸に挑戦しています。何を蒔こうかみんなで決め、野菜と花を育てることになりました。生徒も指導員もまったく園芸については素人なので、みんなで園芸店へ育て方を聞きに行きました。順調に育っているものや、途中で枯れてしまったものもあります。生徒はお互いに慰め合ったり誉め合ったりして、立派に育つように面倒を見ています。この経験は、子供たちの協調性や感受性を育みます。そして成し遂げることで自信が付き、本人に次のやる気を起こしてくれるものと確信しています。

今は小さな実だけれど

―◆―◆―◆―

所長に生徒の今年の取り組み作品についてご案内していただきました。白鳥教室のベランダに置かれたプランターの中で、生徒がお世話をしている花や野菜は、周りを高いビルに囲まれながらもしっかりと根を張って育っていました。その中のいくつかは確かに実を付けていました。

教育研究所には親身になって相談に乗ってくれる専門員がいます。悩んで解決しないときは研究所に一声かけてみてはいかがでしょうか。

教育相談や白鳥教室へのお問い合わせは
教育相談部 ☎(3256)8140

ほしい　千代田区の国際交流

千代田区では、帰国子女や外国の児童・生徒が日本の学校や生活に早く溶け込んで、個人の能力や個性を伸ばしていけるように、また区内の児童・生徒には諸外国の文化や歴史、習慣などを学びつつ、世界平和の発展に努めようとする能力を身につけてほしいと、国際理解教育に早くから取り組んできました。外国人講師による授業や、英国ウエストミンスター市立学校生徒との交流および同市からの教員派遣、さらには区内の外国人学校の訪問などを行い、児童・生徒の国際的な視野を広めて、人間尊重の精神を育んでいます。

千代田区の3名の外国人講師をご紹介します。キャサリン・レイン先生とスタン・ピダーソン先生は幼稚園・小学校で、ターニャ・イグチ先生には中学校でそれぞれ英語指導を通して、児童・生徒の間で国際理解のための「かけはし」となっていただいております。なお、ターニャ・イグチ先生はウエストミンスター市からの派遣教員です。先生方の抱負や感想などを伺ってみました。

キャサリン・レイン先生

教師になって8年、高校生ぐらいの生徒に教えてきましたが、今年は初めて幼稚園と小学校の英語の先生になりました。ここでは「言葉」は問題ではありません。外国人と一緒という「経験」が大切です。例えば、幼稚園の子供は私にこんな質問をしてきます。「先生の髪は黄色です。何で？」「先生の目の色は違う。何で？」

このような質問を通して、子供たちは初めて別の人種と文化と生活について理解し始めます。今の私の仕事のテーマはこれです。

Catherine Layne

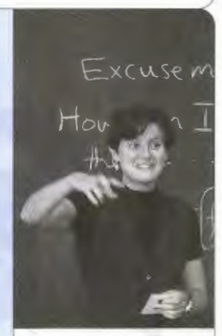
ジャンケンはボクの方が強いよ

face to faceで指導

私がとても感心していることは、千代田の生徒が英語の授業でとても積極的だということです。多くの生徒が私とコミュニケーションし、私の発音をまねしてくれます。何より嬉しいことは、皆さんが英語の授業以外、例えば廊下や表通りにいる時、昼食の時など、進んで私に話しかけてくれることです。

最近ますます多くの日本人が外国を旅行するようになりました。千代田区の生徒の皆さんが英語学習に対して積極的な態度をとり、いつの日か外国に行き、その英語を試してもらいたいと思っています。

Tanya Iguchi



ターニャ・イグチ先生

スタン・ピダーソン先生

千代田の児童は純粋な子が多いと思います。千代田で教え始めた5年前と比べると、外国人に慣れるのが早くなった反面、小学校の高学年の児童の態度に変化が見られます。大人のように必要以上に恥ずかしがり、授業に対する協調性が弱くなったように思えます。

一般的に日本人は真面目すぎると思います。子供のように気持ちをオープンにして、楽しく遊びの感覚で学んでほしいと思います。せめて試験に振り回されない小学校では、楽しく英語を教えていきたいと思います。

Stanley C.Pederson

みんな楽しくて夢中です

どこかで3人の先生に会ったら　進んで　話しかけてみましょう。
先生方も　待ってますよ。

国際性豊かな子供に育って

ウエストミンスター市立学校生徒との交流

今年の5月11日、ウエストミンスター市立学校生徒13名が来日しました。千代田区との交流は回数を重ねるごとに充実し、興味や関心が育まれているようです。5月21日までの11日間と短い期間ではありましたが、生活文化や習慣の違いをホストファミリーの皆さんから温かく教えていただきました。

学校生活体験で友達もできました。相撲や歌舞伎などの日本の伝統文化に触れ、軽井沢宿泊体験学習では自国とは違った自然を学びました。

今回の交流で新たに知ったことも多いと思います。両国の生徒はこの経験を通して国際理解を深め、今後の成長の過程に生かされることでしょう。派遣生徒とホストファミリーの交流の感想を紹介します。

来日した生徒たちから

- 生活習慣の違いがわかり、よい経験ができた。
- ホストファミリーは本当に親切にしてくれました。もっと長く滞在したかった。
- 軽井沢の宿泊体験は楽しかった。ホストファミリーと一緒に行きたかった。
- 日本の学校生活を体験できてよかった。日本の生徒は一生懸命勉強していた。日本語をもっとわかりたいと思った。
- 相撲は面白かったが、歌舞伎はよくわからなかった。

和楽器にトライ

中学校の授業に参加

小学生と交流するウエストミンスター市立学校生徒

ホストファミリーから

ウエストミンスター市派遣生徒の日本の印象はとてもよかったようでした。ではホストファミリーの方々にとっては、どのような交流だったのでしょうか。言葉の壁や習慣の違いを乗り越えて親身にお世話をしていただいたご感想を紹介します。

体は大きいけれどまだまだ子供かな

自分の意思表示ははっきりできるのだが、生活習慣はしっかり身についていないように思われた。朝寝坊をするとか、部屋の整頓も上手ではなかった。食事も和食が口に合わないようで、ハンバーガーなどのファーストフードを好んでいた。

着替えについては体格が大きく心配したが、自分でたくさん洋服を持ってきてくれたので問題がなかった。自分の子供と重ねて見ると、遠い異国にきてよく頑張ったと思う。

多感な時期は接し方が難しい

来日の前日まで、狭い家をなんとか広く見せようと、家族でかたづけをした。英語は苦手なので、日常会話は自分の子供に分担させた。いろいろと日本を体験してほしいと計画を立てたが、いつも疲れているようだったので、全ては実行できなかった。ホームシックにかかったらしく、母国や友達に電話をよくかけていた。年頃で恥ずかしいのか洗濯物を出してくれず困った。

やっと日本に慣れ始めたころ帰国なので残念だった。習慣や考え方の違いが実際に体験でき有意義であったと思う。

料理は工夫次第、独立心はさすが

食べ物に問題ないと聞いたので和食を中心に用意したが、箸を使うことが苦手なようでピラフなど洋食風に切り替えた。

滞在中は子供と一緒の部屋で我慢してもらったが、本人はこの体験を喜んでいたようだ。

身の回りの整理整頓はきちんとしてくれた。何より進んで家事を手伝うと言ってくれたことが嬉しかった。香水を付けているのには驚いたが、お国柄の違いであろうか。意外と東京を知っていて、休みの日は自分から行ってみたい所を言ってくれた。

異なる習慣にもノープロブレム

着替えなどは一杯持ってきてくれたし、食事もよく食べてくれた。何よりも心配していた日本のお風呂を気に入ってくれたのでよかった。思っていたよりリラックスして過ごせたと思う。

ホストファミリーの皆様には楽しい体験や苦労されたことがたくさんあったようです。

異なる文化や習慣に触れること、体験することで国際理解がさらに深まることと思います。

▲自分たちの学校について考える（一橋中）

▲雨あがりの旧街道を歩きました（昌平小）

▲大きな短冊に願いを込めて（番町小）

▲じゃがいも作りは大変だ（麹町小）

▲懐古園前に集合（麹町中）

学校通信（一学期）

一橋中学校	生徒総会
昌平小学校	箱根移動教室
番町小学校	七夕集会
麹町小学校	嬬恋自然体験交流教室
麹町中学校	軽井沢移動教室

保田臨海学園ってこんな所です

小学校3年生の夏季施設は、今年より千葉県鋸南町にある千代田区立保田臨海学園で行われることになりました。この学園は中学校1年生が、毎年夏季施設で利用しています。

学園の隣は入り江になっており、波は穏やかです。海岸線は、砂浜や岩礁があり、自然観察にも適しています。東京湾の浦賀水道に面しており、富士山も見ることができます。

なお、この学園は夏季施設など学校が利用するとき以外は、区民の皆さんに利用していただいています。

▲臨海学園の隣りは海水浴場

お問い合わせは
教育委員会庶務課計画係
☎(3264)0151 内3114

今回は、千代田剣友会の指導者の方にお話を伺いました。

はじめに活動の内容について教えてください。

現在、昼の部と夜の部があり、それぞれ月に二、三回、神田さくら館の体育館で子供たちと汗を流しています。昨年初めて区内の級別の試合で優勝者が出るなど、練習の成果が出ています。

保護者の方々からは、指導についてどのような要望がありますか。

特にお母さん方に「子供たちに礼儀を教えてほしい」という方が多いのですが、私たち指導者としては、まずは体力、次に集中力をつけるようにというふうに、段階を踏んで、剣道の練習を通して忍耐力や謙虚さなど様々なことを身につけるようにしています。

学校の中だけでは、なかなか他の学年の子と知り合う機会がありませんが、ここではそういった触れ合いもできますし、自分が竹刀でたたかれることによって相手の痛みもわかります。また、武道を通してぶつかり合うことでストレスが解消され精神衛生上よい効果が得られると思われます。

子供たちを指導されていて、難しいと思われることはありますか。

年齢や能力がまちまちな子供たちを同じ場で教えることは確かに大変ですが、保護者の方々にご協力いただきながら、年を越えた子供たちが、仲間意識をもって、楽しく取り組んでくれています。ですから、ある程度基本的なルールは守らせながらも、自由な雰囲気を吸収してもらえればいいなあと感じています。

結果が全てではありませんが、よい成績を上げて喜んでいる子供たちの姿を見ていると、自分のことのように嬉しいですし、剣道を教えていてよかったなあと思いますね。また、毎回練習が終わるたびに、喜びや充実感を感じています。何より子供たちが頑張っている姿を見るのが一番嬉しいですね。

最後に抱負を一言お願いします。

私たち指導者は、練習のときは剣道そのものの指導と言うより、忙しくてなかなか子供たちを見ることができない保護者の方々に代わって、剣道を通じて地域で子供たちを育てているのだという意識でいます。そして、練習や試合が終わった後に、子供たちが保護者の方々と剣道の話題で楽しい語らいができれば、これに過ぎる喜びはありません。

がんばれ!!　豆剣士

シリーズ 地域に支えられる子供たち（その4）
－厳しさの中にも自由な雰囲気－
千代田剣友会

生活用具のうつりかわり －電話機－

電話機は、一八七六年にアメリカ合衆国のグラハム・ベルによって発明されました。当時欧米では、すでに電信技術による電報が普及していたため、電話は「電気の玩具」としか認められなかったという話があります。

日本には、ベルが特許を取得した直後の一八七七（明治一〇）年に二個の電話機が輸入されました。そして同年一二月には、赤坂溜池葵町にあった工部省と約二キロ離れた赤坂御所の宮内省との間で公開実験が行われました。工部省では、電話機の製造を試み、翌一八七八（明治一一）年に二個の電話機を作り上げました。そして、一八九〇（明治一三）年には、通信省によって電話交換業務が開始されました。当時の電話では、電話をかけるとまず交換手のいる交換台につながり、相手先の電話番号を口頭で伝えて電話をつないでもらうというものでした。電話に対して、知識の少なかった当時、電話を通じてコレラがうつるのではないかと心配をした人がいたそうです。

当時は、普及のテンポは遅く、交換業務開始から一四年たった一九〇四（明治三七）年には、電話の加入台数は全国で約三万五千件でした。

写真①は昭和二六年製の黒電話、写真②は明治四五年に区内のある商家が、電話の加入を申し込んだときの通知書です。

通知書によると、明治四五年五月の段階で、明治四五年年度の申し込み順番は二九二〇番になっています。

写真①　黒電話

写真②　加入通知書

きょういく随想

「行きかふ年もまた旅人なり」
と芭蕉はさすらいの魂を詠った
多彩な哀歓を秘めて、今年もく
れる
ほのかなる光を求めつつ
来る年もまた旅に

こころ

千代田区立
練成中学校長
川西昭治

私が中学三年生の冬休み、母の使いで四国の高松市に住む叔父を訪ねて、十二月二十九日に宇高連絡船（宇野と高松を結ぶ航路）の紫雲丸に乗った時のことである。

冷たい寒風の吹きすさぶ甲板で、日の暮れかかる夕映えの瀬戸内海諸島の美しさに見とれていると、なにやら後ろでパタパタという音がする。ふりかえると、はがれかけている一枚のポスターが目に入った。なんと今、私の眼前に見える美しい景色そのままのポスター。

冒頭の詩はそこに書かれていたものである。

私はその詩を一読して、その何ともいえないひびきに魅きつけられてしまった。そして、己の心にそれを刻み込まんと、美しい入り日に向かって、自然に両の手を合わせ、くり返しくり返し諳じた。

ところがその夜、叔父の家でもう一度諳んじようと思ったところ、どうしても途中から思い出せなくなってしまった。私はくやしくて、翌日は朝食をすませると、すぐ叔父の家を辞し、同じ紫雲丸にのるべく高松港へと急いだ。係員に確かめると紫雲丸の出向時刻は、二便あとであと四時間後という。それでも私は何としても覚えたくて、待ち時間を利用して街へもどって手帳とボールペンを買い求めると、乗船後はその詩をしっかりと手帳に写し、懸命に諳んじた。

私は帰宅するなり諳んじた詩を母に聞かせ、詩との出会いの一部始終を一気に話しはじめた。夕食の準備に取りかかっていた母は、その手を休め、私の話にじっと耳を傾けてくれた。そして、お茶を入れながら微笑みを浮かべて、

「素敵な詩だね、よく覚えたこと。お前の初めての一人旅の記念に、しっかり覚えておきなさい。お母さんも覚えておきますからね。」と言って、私のあとについて口ずさみながら、また夕食の準備にとりかかった。

あの時の母の嬉しそうな、楽しそうな弾んだ声と、微笑みを浮かべ一部始終に耳を傾け、よく聞いてくれた顔、そして、誉めてくれた言葉。いまでも、一言半句たりとも忘れてはいない。

暦の師走と学校暦の弥生の暮れになると、いつも、この詩を詠い、我が思春期の記念として、「一人旅と母」の思い出を懐かしんでいる。

追記

「心こそ心迷わす心なれ
心に心　心ゆるすな」

これは、北条時頼公の歌である。

この意味することは、「人間の心は、意馬心猿といって、ちょっと油断をすると、心が馬や猿のように飛んで廻るから、何時も自分で自分の心を引き締めておらねばならぬ」という「人間の心」の戒めのことである。

「幼児期からの心の教育の在り方について」が論じられている今、まず、大人の我々がしっかりした「心」を持たなければならないと思う。

かわにし　しょうじ
区立中学校長会長

きょういく随想

編集後記

大きな1点。フランスで開催されたワールドカップ、初出場を果たした日本サッカーチームは健闘むなしく1点に天を仰ぎました。しかし、世界レベルという大きな体験をしました。

一学期、子供たちは嬬恋自然体験交流教室や軽井沢・箱根移動教室で、地域に培った自然や歴史を体験しました。ウエストミンスター市立学校生徒は日本の学校やホストファミリーとの生活、文化や自然を体験し、思い出を胸に帰国しました。国際理解教育では、子供たちには外国人講師と触れ合いや親しみを体験しています。

体験は新しい発見とさらなる進歩をもたらすものと思います。まもなく夏休み、子供たちは様々な体験をするよい機会です。家族で一緒に計画をたてられていることでしょう。

さて、今号では地域に開かれた身近な施設を目指しスタートしました教育研究所を紹介しました。今後の活動に期待していただきたいと思います。

「かけはし」についてのご意見・ご感想・ご要望をお待ちしています。

教育広報「かけはし」第三十五号
平成10年7月17日発行
編集発行／千代田区教育委員会
〒102-8688　千代田区九段南1-6-11
☎(3264)0151　内3114